

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

国語 科目 言語文化

教 科： 国語

科 目： 言語文化

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：

使用教科書： （ 東京書籍『新編言語文化』 ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く 共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識 を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語 文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A「言語文化」を学ぶにあたって 【知識及び技能】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】「言語文化」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】「言語文化」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。	1「言語文化」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。 2どのような言語文化に触れてきたか、またこの授業でどのような内容について学びたいかを発表させる。	○			【知】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。 【思】「言語文化」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につけている。 【態】「言語文化」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけている。	○	○	○	1
	B「とんかつ」 【知識及び技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理することができる。	1とんかつに対するイメージや筆者について知っていることを発表する。 2本文を通読し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。（手引き1） 3この親子の様子を整理する。また、その様子を見た語り手と女中が抱いた印象も整理する。 4親子の状況を想像する語り手と女中の心理を理解する。（手引き2・3） 5第二段を音読し、状況が判明した後の語り手の心理を整理する。（手引き4） 6第三段における直太郎の変化を理解する。（手引き5）	○	○	○	【知】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【態】 ・進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。	○	○	○	9
	C「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。		○		【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○		○	3
	定期考査							○	○	

2 学 期	D「デューク」 【知識及び技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとする態度を養う。	1 全文を通読し、事実を確かめる。(手引き1) 2 場面の变化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。 3 第一段を読み、「私」の内面の状態をまとめる。(手引き3-1) 4 「私」の説明に従って、「少年」の行動を順を追って整理する。 5 「私」の内面の变化を順を追って整理する。(手引き2) 6 第二段を読み、「私」の目が捉えた「少年」の行動を整理する。 7 「私」と「少年」について、比喩で表現した箇所を抜き出し、比喩の効果について考え、まとめる。 8 第三段、第四段を読み、「私」と「少年」の行動を順を追って整理する。 9 落語を聞いてからの「私」の心理について考え、それを聞いた「少年」がキスをした理由を考える。(手引き4・言語活動1) 10 「私」の内面の变化を、变化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き2・3-2・4) 11 「クリスマスソング」という表現に留意して、「私」のその後について考える。 12 「渋谷・銀座」という東京を代表する繁華街が舞台になっているのを踏まえて、「私」がこの後、どうなったのかを想像し、話し合う。(手引き5) 13 小説の主題について、自分なりに考えて文章にまとめた後、発表する。	○	○	○	○	○	○	11	
	E「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。		○			○	○		3
	定期考査						○	○		1
3 学 期	F「徒然草」 【知識及び技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとする態度を養う。	1 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。(手引き1・古文学習のしるべ1) 2 語り手の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。(手引き2・3) 3 現代語訳する際の注意点を理解する。(古文学習のしるべ1)	○	○	○	○	○	○	7	

G「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。		○	【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○	○	2
定期考査					○	○	1 合計 39

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

国語 科目 現代の国語

教 科： 国語

科 目： 現代の国語

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 東京書籍『新編現代の国語』

）

教科 国語

の目標：

【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く 共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語 文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A「現代の国語」を学ぶにあたって 【知識及び技能】「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】「現代の国語」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。	1「現代の国語」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。 2自己紹介とこの授業での目標を発表させる。	○			【知】 「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。 【思】 「現代の国語」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につけている。 【態】 「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけている。	○	○	○	1
	B「水の東西」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとする。	1筆者の着眼点に注意しながら、本文を通読する。（手引き1） 2第一段での筆者の「鹿おどし」への思いを理解する。（手引き2） 3「鹿おどし」は、筆者にとってどのようなものであるかを理解する。（手引き3・4） 4筆者の考える「水の流れ・時の流れ」について理解する。（手引き5） 5第二段から、筆者の噴水に対する考え方を読み取る。（手引き6） 6筆者の着眼点への評価を客観化する。日本文化と西洋文化を具体例で比較して実感的に文化の差異を知り多文化共生とはどのようなものかを話し合う。（言語活動1・2）	○	○	○	【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【態】 ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。	○	○	○	9
	C「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。		○		【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○		○	3
	定期考査							○	○	1

2 学 期	D「スミガキが育む都市の緑と生命のつながり」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合うことができる。	1 本文を通読して、内容を把握する。（手引き 1） 2 「都市」の概念と現実・現状を理解する。（手引き 2） 3 「都市」において植物や鳥類・昆虫類等の生息についての実見を発表させる。かなり都市化された状況でも無生物とはならないことを理解する。（手引き 3） 4 筆者の考える「都市」とはどのようなものか理解する。（手引き 4） 5 「都市」とそこで生きる植物との関係をつくることの意義について理解する。（手引き 5） 6 本文の内容を踏まえて、実際の生活における動植物環境との関わりを考え、話し合う。（言語活動）（考えよう……メディアとの付き合い方、グラフや写真の読み取り方）	○	○	○	【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【態】 粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。	○	○	○	11
	E「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。	○			【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○	○		3
	定期考査						○	○		1
3 学 期	F「りんごのほっぺ」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合うことができる。	1 本文を通読する。（手引き 1） 2 第二次世界大戦・太平洋戦争や東京大空襲・沖縄戦・広島・長崎への原爆投下等、生徒各自の知識を整理する。 第一段から「少年」に関わる説明や表現を抜き出し、ここでのそれぞれの意味を明らかにする。 3 「少年」に対する筆者の思い・考えを理解する。（手引き 2） 4 「朗読劇」に関する筆者の思い・考えを整理して理解する。（手引き 3・4） 5 「戦争」に関する筆者の思い・考えを整理して理解する。（言語活動） 6 この文章で筆者は、「美しさの発見」とはどのようなものであると述べているか、考えを述べ合う。（手引き 5）	○	○	○	【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【主】 ・粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合おうとしている。	○	○	○	7

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 全類型 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数Ⅰ708 「高校数学Ⅰ」 実教出版 ）

教科 数学	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする
【思考力、判断力、表現力等】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

科目 数学Ⅰ	の目標：
【知識及び技能】	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	三角比 【知識・理解】 ・サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解できる。 ・直角三角形について、三角比の値を求めることができる。 ・三角比の相互関係について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・直角三角形において、2辺の長さが与えられた場合について、三平方の定理を利用することで残りの1辺の長さが得られ、それによって三角比の値を求めることができることを考察できる。 ・日常の事象について、三角比を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 ・三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・直角三角形において、三角形の大きさにかかわらず、角の大きさだけで三角比の値が決まることの良さがわかる。	3章 三角比 1節 三角比 1. 三角形 2. 三角比 3. 三角比の利用 4. 三角比の相互関係 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解するとともに、鋭角の三角比を利用して2地点の標高差や水平距離が求められるよう	【知識・理解】 ・サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解できる。 ・直角三角形について、三角比の値を求めることができる。 ・三角比の相互関係について理解できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・直角三角形において、2辺の長さが与えられた場合について、三平方の定理を利用することで残りの1辺の長さが得られ、それによって三角比の値を求めることができることを考察できる。 ・日常の事象について、三角比を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 ・三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・直角三角形において、三角形の大きさにかかわらず、角の大きさだけで三角比の値が決まることの良さがわかる。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	三角比 【知識・理解】 ・三角比を鈍角まで拡張することの意義を理解できる。 ・鋭角の三角比を理解できる。 ・正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・鋭角の三角比を用いて、鈍角の三角比の値を求められることを考察できる。 ・鋭角の三角比と同様に、鈍角の三角比においても、三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 ・正弦定理や余弦定理を導く過程を考察できる。 ・日常の事象について、正弦定理や余弦定理を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・校舎の高さや、2地点の標高差・水平距離などを、三角比を用いて調べようとしている。 ・余弦定理と三平方の定理の関係に関心をもっている。 ・正弦定理や余弦定理を利用することで、実測が難しい距離などを求められることに関心をもっている。	3章 三角比 2節 三角比の応用 1. 三角比の拡張 2. 三角形の面積 3. 正弦定理 4. 余弦定理 5. 正弦定理と余弦定理の利用 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解するとともに、正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求められるようにする。 ・三角比を用いて三角形などの面積を求めたり、空間図形の考察に活用できるようにする。	【知識・理解】 ・三角比を鈍角まで拡張することの意義を理解できる。 ・鋭角の三角比を理解できる。 ・正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・鋭角の三角比を用いて、鈍角の三角比の値を求められることを考察できる。 ・鋭角の三角比と同様に、鈍角の三角比においても、三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 ・正弦定理や余弦定理を導く過程を考察できる。 ・日常の事象について、正弦定理や余弦定理を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・校舎の高さや、2地点の標高差・水平距離などを、三角比を用いて調べようとしている。 ・余弦定理と三平方の定理の関係に関心をもっている。 ・正弦定理や余弦定理を利用することで、実測が難しい距離などを求められることに関心をもっている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1

2 学 期	集合と論証 【知識・技能】 ・集合に関する基本的な概念を理解できる。 ・2つの集合の和集合・共通部分を求めることができる。 ・命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題の真偽を調べることができる。 ・必要条件, 十分条件, 必要十分条件について理解できる。 ・命題の逆や対偶をつくることができる。 【思考・判断・表現】 ・集合と命題の関係を考察できる。 ・対偶などを利用して、簡単な命題を証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体的な事象を、集合で表すことのよさについて理解しようとしている。 ・身の回りの話題から、命題を考察して、必要条件, 十分条件, 必要十分条件を積極的に調べようとしている。	4章 集合と論証 1節 集合と論証 1. 集合と要素 2. 命題 3. いろいろな証明法 ・集合に関する基本的な概念を理解する。 ・命題に関する基本的な概念を理解するとともに、基本的な命題の証明ができるようにする。	【知識・技能】 ・集合に関する基本的な概念を理解できる。 ・2つの集合の和集合・共通部分を求めることができる。 ・命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題の真偽を調べることができる。 ・必要条件, 十分条件, 必要十分条件について理解できる。 ・命題の逆や対偶をつくることができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・集合と命題の関係を考察できる。 ・対偶などを利用して、簡単な命題を証明することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体的な事象を、集合で表すことのよさについて理解しようとしている。 ・身の回りの話題から、命題を考察して、必要条件, 十分条件, 必要十分条件を積極的に調べようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	データの分析 【知識・技能】 ・与えられたデータを、指定されたグラフで表すことができる。 ・代表値, 四分位範囲, 分散, 標準偏差などの意味や用い方を理解しており、またそれらを適切に求めることができる。 ・具体的な事象を通して、仮説検定の考え方を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・データの散らばり具合を数値化する方法を考察できる。 ・具体的なデータを元に、表を活用するなどして、相関係数を求める方法を考察できる。 ・仮説検定の考え方をを用いて、身の回りの事象を批判的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身の回りのいろいろなデータを集め、適切なグラフで表したり、代表値や散らばりを調べたりして、データを分析しようとしている。 ・身の回りの現象で、正の相関関係があるものと負の相関関係があるものについて、積極的に調べようとしている。	5章 データの分析 1節 データの分析 1. 統計とグラフ 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. データの散らばり 5. 外れ値 6. 相関関係 7. 仮説検定の考え ・統計の基本的な考えを理解するとともに、データの散らばりを数値で表してデータの傾向を把握したり、散布図や相関係数を用いて2つのデータの相関を把握できるようにする	【知識・技能】 ・与えられたデータを、指定されたグラフで表すことができる。 ・代表値, 四分位範囲, 分散, 標準偏差などの意味や用い方を理解しており、またそれらを適切に求めることができる。 ・具体的な事象を通して、仮説検定の考え方を理解できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・データの散らばり具合を数値化する方法を考察できる。 ・具体的なデータを元に、表を活用するなどして、相関係数を求める方法を考察できる。 ・仮説検定の考え方をを用いて、身の回りの事象を批判的に考察できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身の回りのいろいろなデータを集め、適切なグラフで表したり、代表値や散らばりを調べたりして、データを分析しようとしている。 ・身の回りの現象で、正の相関関係があるものと負の相関関係があるものについて、積極的に調べようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	課題学習 【知識・技能】 ・各章で学んだ知識・理解を元に、計算などを適切に処理できる。 ・課題で取り組むことがらを理解できる。 【思考・判断・表現】 ・各章で学んだ内容を活用し、課題を考察できる。 ・課題について自分の考えを表現したり、他者の考えを聞いて判断したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自ら課題に取り組み、各章で学んだことをふり返りながら考えようとしている。	課題学習 1. 黄金比と√の計算 2. 売り上げ金額の最大値を求めてみよう 3. 角度を変えて斜面を滑ろう 4. 何票とると当選？ 5. カード集めの問題 ・本文で学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題に取り組む。	【知識・技能】 ・各章で学んだ知識・理解を元に、計算などを適切に処理できる。 ・課題で取り組むことがらを理解できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・各章で学んだ内容を活用し、課題を考察できる。 ・課題について自分の考えを表現したり、他者の考えを聞いて判断したりできる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自ら課題に取り組み、各章で学んだことをふり返りながら考えようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅠ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：

使用教科書：（ ALL Aboard English CommunicationⅠ 東京書籍 ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 聞く、話す、読む、書くことによる適切なコミュニケーションの技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 外国語で話し手や書き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合っている。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る。

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	【知識及び技能】 動名詞（動詞の-ing形）を用いた文の形・意味・用法を理解する 【思考力・判断力・表現力等】 水族館部の活動を通して、部員たちが学んだことや将来に向けての目標を読み、自分が今関心を持っていることに目を向け、それを踏まえて将来の目標を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 部活動に関して、自分の取り組みを使えたり、相手の考えや取り組みを知る機会を設けて、英語で伝え合う力を養う。	○Lesson 5 Learning from the Sea 【題材内容】 高校のユニークな部活動を通して、今好きなことを将来のことについて考える。 【言語材料】 動名詞 【言語活動】 将来の夢について、英語で述べることができる	○	○	○		○	【知識】動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【技能】将来の夢や先週末に楽しんだことについて、動名詞を用いて、考えや気持ち、情報などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思】高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたりよんだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝えあっている。 【態】高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、相手の意見を知り、自分の考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	○	○	○	13
	【知識及び技能】 受け身（be動詞＋過去分詞）を用いた文の形・意味・用法を理解する 【思考力・表現力・学びに向かう力】 題材である江戸時代後期に活躍した浮世絵師、歌川国芳の作品は、現代のマンガにつながるユーモアがあり、ドラマチックな題材も多い。 浮世絵は昔のものだというイメージをくつがえし、現代の高校生に浮世絵の魅力を感じさせるきっかけとする。 また、江戸時代と現代の日本文化の連続性を考えさせたい。	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 【題材内容】 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 【言語材料】 受け身 【言語活動】 好きな絵について、英語で述べる事が出来る	○	○	○	○	○	【知識】受け身を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【技能】好きな絵の紹介とその理由について、受け身を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思】歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。 【態】歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	○	○	○	15

[illegible]

年間授業計画 様式例

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 理科 科目 科学と人間生活

教科 理科 科目 科学と人間生活

単位数 2 単位

対象学年組 第 2 学年 A 組

教科担当者

使用教科書 （ 高等学校 科学と人間生活（第一学習社） ）

教科 理科 の目標

【知識及び技能】2年間の理科授業の中で、科学技術をテーマとして、理科の基礎的な学習を円滑に進めて、この内容を買得すること目標とする。

【思考力、判断力、表現力等】科学技術をテーマとして、科学的な思考・技能を簡素化し、身近な事象を用いて習得できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生徒自身が実験・観察の操作・体験を通じて、生徒自身がワークシートに記入出来る様に指導行う。

科目 科学と人間生活 の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然と人間生活との関わり及び、科学技術が人間生活に果たしてきた役割について考える。	日常生活や身近な事象・現象に関する実験・観察などを通じて理解させる。また、それを利用して体得できるようにする。	科学的な見方・考え方、または科学技術への役割を養うとともに、興味・関心を高めていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・科学技術の発展 ・人間生活の中の科学、光や熱の科学（知）材料とその利用をテーマに特徴・成り立ち・分類・用途を学習する。 （思）具体的にプラスチック・金属・繊維それぞれの特徴・成り立ち・用途を考える。 （態）それぞれの材料はどのような所でどのように活用・利用されているかを把握する。	・科学技術の発展が今日の人間生活に対して、どのようにして貢献したかについて理解させる。 ・身近な自然の事象・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかわりについて認識を深めさせる。	・科学技術の発展を理解しているかどうか。 ・科学と人間生活との関わりを理解しているかどうか。 （知）材料を科学技術の歴史と発展を振り返って理解しているかどうか。 （思）科学技術の歴史を顧みて、現在、どのように使用されているかを知る。 （態）それぞれの材料を生産・使用・廃棄・再利用を生徒自身が考えて実践していく。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	・科学技術の発展 ・人間生活の中の科学、光や熱の科学（知）材料とその利用をテーマに特徴・成り立ち・分類・用途を学習する。 （思）具体的にプラスチック・金属・繊維それぞれの特徴・成り立ち・用途を考える。 （態）それぞれの材料はどのような所でどのように活用・利用されているかを把握する。	・科学技術の発展が今日の人間生活に対して、どのようにして貢献したかについて理解させる。 ・身近な自然の事象・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかわりについて認識を深めさせる。	・科学技術の発展を理解しているかどうか。 ・科学と人間生活との関わりを理解しているかどうか。 （知）材料を科学技術の歴史と発展を振り返って理解しているかどうか。 （思）科学技術の歴史を顧みて、現在、どのように使用されているかを知る。 （態）それぞれの材料を生産・使用・廃棄・再利用を生徒自身が考えて実践していく。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	・物質の科学、生命の科学 ・宇宙や地球の科学（知）中学理科学分野で学習しているので、復習を兼ねて、光合成の学習をして、それをもとに発展的に考える。 （思）植物の生育や光に対する動物の行動を観ていく。 （態）光合成は生物にとって必要不可欠なもので、生物にとってなくてはならないことである事に気づかせる	・材料とその再利用、衣料と食品、生物と光、微生物とその利用 ・身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害	・材料、衣料と食品、生物と光、微生物を理解しているかどうか。 ・身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害を理解しているかどうか。 （知）中学で学習した内容を蘇っているかをテーマに学習する。 （思）中学の内容を利用して、植物の生育、動物の行動、人の視角を考えていく。 （態）太陽の光は、それ以外に動植物に、どのように影響を与えるか、さらに人間への影響について知る。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	・物質の科学、生命の科学 ・宇宙や地球の科学（知）中学理科学分野で学習しているので、復習を兼ねて、光合成の学習をして、それをもとに発展的に考える。 （思）植物の生育や光に対する動物の行動を観ていく。 （態）光合成は生物にとって必要不可欠なもので、生物にとってなくてはならないことである事に気づかせる	・材料とその再利用、衣料と食品、生物と光、微生物とその利用 ・身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害	・材料、衣料と食品、生物と光、微生物を理解しているかどうか。 ・身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害を理解しているかどうか。 （知）中学で学習した内容を蘇っているかをテーマに学習する。 （思）中学の内容を利用して、植物の生育、動物の行動、人の視角を考えていく。 （態）太陽の光は、それ以外に動植物に、どのように影響を与えるか、さらに人間への影響について知る。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	・これからの科学と人間生活（知）1・2学期の内容を踏まえて、新機能を備えたプラスチック・衣料の開発を考える。 （思）プラスチックの開発として高吸水樹脂・導電性樹脂など新素材について学ぶ （態）プラスチックは使い勝手の良い面、マイクロプラスチックのように生体内に悪影響があると言われてるので、良い面悪い面、両方を知る	自然と人間生活との関わり、及び科学技術を人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活との関わり方について考察させる。	・自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割を理解しているかどうか。 （知）プラスチックの歴史と発展を振り返って、理解しているかどうか。 （思）使い勝手の良いプラスチックは、無くてはならないと思うので、プラスチックの未来を予測する。 （態）プラスチックの便利さよりも、プラスチックを減らすことを目的とすることが多くなってきたのでプラスチックの量を考えていく。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	・これからの科学と人間生活（知）1・2学期の内容を踏まえて、新機能を備えたプラスチック・衣料の開発を考える。 （思）プラスチックの開発として高吸水樹脂・導電性樹脂など新素材について学ぶ （態）プラスチックは使い勝手の良い面、マイクロプラスチックのように生体内に悪影響があると言われてるので、良い面悪い面、両方を知る	自然と人間生活との関わり、及び科学技術を人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活との関わり方について考察させる。	・自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割を理解しているかどうか。 （知）プラスチックの歴史と発展を振り返って、理解しているかどうか。 （思）使い勝手の良いプラスチックは、無くてはならないと思うので、プラスチックの未来を予測する。 （態）プラスチックの便利さよりも、プラスチックを減らすことを目的とすることが多くなってきたのでプラスチックの量を考えていく。	○	○	○	6
							合計
							78

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 現代高等保健体育 (大修館書店) ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにする。また、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともにそれらの技能を身につけられるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するために、自己の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育む。また、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ体動を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・ 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり、書きだすことができるようにする。 ・ サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができるようにする。 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけることができるようにする。 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・ オリエンテーション ・ スポーツテスト ・ 体づくり運動 ・ バドミントン ・ バレーボール ・ 体育理論	【知識・技能】 ・ 心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて言ったり、書きだすことができるようにする。 ・ サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができるようにする。 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけることができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	○	○	○	31
2 学 期	・ 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称がありそれらを身に付けるためのポイントがあることを理解できるようにする。 ・ ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができるようにする。 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・ バスケットボール ・ サッカー ・ 体育理論	【知識・技能】 ・ 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 【思考・判断・表現】 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	31
3 学 期	・ 技術と関連させた運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。 ・ 自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができるようにする。 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つめることができるようにする。 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・ 陸上競技 ・ 体育理論	【知識・技能】 ・ 体力を高めるための運動や技術を理解して、言ったり書き出したりしている。 ・ 自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 【思考・判断・表現】 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	16
							合計
							78

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 現代高等保健体育(大修館書店) ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けられるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あり生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面・心理面等の変化に関わり、健康課題が生じる可能性があることを理解できるようにする。 ・結婚生活について心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。	・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・思春期と健康について習得した知識を基に心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性にかかわる情報を適切に整理することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健医療サービスの活用方法を整理することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	・人間の瀬克や産業活動は大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等の環境汚染を引き起こし、健康に悪影響を及ぼし、被害をもたらす可能性があることについて理解できるようにする。 ・健康への影響や被害を減らすためには汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された物質を適切に処理したりすることが必要であることを理解できるようにする。	・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康にかかわる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	・我が国や世界では健康を支えるために、健康課題に対して各種の保健活動や社会的対策がおこなわれていることについて理解できるようにする。 ・自他の健康を保持増進するためにはヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できるようにする。	・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医療品の制度とその活用 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
							合計 39

高等学校 令和8年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 組

使用教科書： （ 新版 家庭基礎 とともに生きる・持続可能な未来をつくる ）

教科 家庭

の目標： 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

【知 識 及 び 技 能】男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成する。

【思考力、判断力、表現力等】持続可能な社会の構築を目指して健康や環境に配慮しながら自立して生活する能力を育成する。

【学びに向かう力、人間性等】青年期を起点として自分の生き方を考えさせ，子どもや高齢者などの異なる世代と関わり共に生きる力を育成する。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家庭生活の意義や役割を理解し，家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識、技術を身に付けている。	家庭や地域の生活について課題を見いだし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心をもち，その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに，実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 これからの生き方と家族、生活をデザインしよう、次世代をはぐくむ 【知識及び技能】生活を主体的に営むために単元で学んだ基礎的なことについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域社会からの問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現する力を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題に主体的に取り組み、家庭や地域の生活の向上を図るために実践する力を身に付けさせる。	○青年期を生きる 1. 自分らしい人生とは 2. 青年期の課題 3. ワーク・ライフ・バランス 4. 男女の平等と相互の協力 ○家族・家庭と社会とのかかわり 1. 家族とは？ 家庭とは？ 2. 家族・家庭の働き 3. これからの生活をつくる 4. 家族に関する法律 ○生活をデザインしよう 1. これからの生活を考える 2. 自分の一生を自分らしく生きるために ○子供の発達 1. 次世代をはぐくむ 2. 命のはじまり 3. 子どもの体の発育・発達 4. 子どもの心の発達 5. 子どもと遊び ○親の役割 1. 親と子の関係 2. 乳幼児期の生活 ○子育て支援と福祉 1. 子育て支援と地域社会の関わり 2. 子どもの権利と福祉	【知識・技能】青年期の生き方や自立、家族・家庭と社会との関わり、生涯設計、子どもの発達、親の役割、子育て支援と福祉について理解し、それらに関わる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】ライフステージや子どもを取り巻く様々な課題について、問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】社会で起こっている様々な課題について、関心をもち、問題解決をはかろうとする意欲を持って話し合い、学び合おうとする姿勢がみられる。	○	○	○	16
	単元 充実した生涯へ、高齢期を生きる、ともに生きる 【知識及び技能】生活を主体的に営むために単元で学んだ基礎的なことについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域社会からの問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現する力を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題に主体的に取り組み、家庭や地域の生活の向上を図るために実践する力を身に付けさせる。	○高齢期を生きる 1. 高齢期をどう生きるか 2. 高齢期の生きがいと就労・社会参加 3. 高齢者を知る ○高齢社会を支え合う 1. 高齢社会の現状と課題 2. 高齢者やその家族の支援システム 3. 高齢者の尊厳を支える ○ともに生きる 1. 社会保障制度と福祉 2. とともに生きる社会をめざして	【知識・技能】高齢期の生き方、心身の特長、社会保障制度と福祉について理解し、それらに関わる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】豊かな高齢社会、共生社会に向けての様々な課題について、問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】社会で起こっている様々な課題について、関心をもち、問題解決をはかろうとする意欲を持って話し合い、学び合おうとする姿勢がみられる。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	単元 食べる 【知識及び技能】生活を主体的に営むために単元で学んだ基礎的なことについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域社会からの問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現する力を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題に主体的に取り組み、家庭や地域の生活の向上を図るために実践する力を身に付けさせる。	○人の一生と食事 1. 私たちと食事 2. 食べることで健康 3. 食生活の変化 4. 食生活を取りまく環境の変化 ○栄養と食品 1. 人体と栄養 2. 栄養素の種類と性質 3. 加工食品・健康増進のための食品 ○食生活の安全のために 1. 食生活の安全と衛生 2. 食品の選択と保存 ○食生活をデザインする 1. 栄養バランスのよい食事 2. ライフステージと食事 3. 献立作成の手順 4. 調理の基本	【知識・技能】食生活の課題、栄養と食品、食の安全、献立作成と調理について理解し、それらに関わる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】健康で持続可能な食生活に向けての様々な課題について、問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】社会で起こっている様々な課題について、関心をもち、問題解決をはかろうとする意欲を持って話し合い、学び合おうとする姿勢がみられる。	○	○	○	16
	単元 食べる、住まう 【知識及び技能】生活を主体的に営むために単元で学んだ基礎的なことについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域社会からの問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現する力を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題に主体的に取り組み、家庭や地域の生活の向上を図るために実践する力を身に付けさせる。	○調理実習 1. 家族の食事をつくろうー和風、洋風献立 2. 自分の食事をつくろう 3. お弁当をつくろう ○人の一生と住まい 1. 人と住まい 2. 平面図の活用 3. ライフステージと住まい 4. これからの住生活 ○住生活の計画と選択 1. 快適で健康な住まい 2. 住まいの安心・安全 3. 住まいの維持管理 4. 日本の住宅事情と住宅政策	【知識・技能】目的に合わせた調理について理解し、それらに関わる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】現代の食生活と調理、安全で健康的な住生活についての様々な課題について、問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】社会で起こっている様々な課題について、関心をもち、問題解決をはかろうとする意欲を持って話し合い、学び合おうとする姿勢がみられる。				15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	単元 装う、経済生活を営む 【知識及び技能】生活を主体的に営むために単元で学んだ基礎的なことについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域社会からの問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現する力を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題に主体的に取り組み、家庭や地域の生活の向上を図るために実践する力を身に付けさせる。	○人の一生と被服 1. 人と被服 2. 多様な被服 3. 被服の選び方 4. 被服のなりたちと着方 ○被服材料と管理 1. 被服材料の種類と特徴 2. 衣料用繊維 3. 被服の手入れと保管 4. 洗濯のしくみ 5. 衣生活と資源・環境	【知識・技能】被服の役割、被服材料と管理、暮らしと経済、消費者問題、持続可能な社会について理解し、それらに関わる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】安全で衛生的な衣生活、将来設計を見据えた経済生活についての様々な課題について、問題発見、課題設定、解決策の構想、実践と評価を経て考察したことを論理的に表現することができる。	○	○	○	8
		○私たちの暮らしと経済 1. 経済生活の中身を知る 2. 家庭生活と社会との関わりを知る 3. 将来の経済生活を考える ○消費者問題を考える 1. 消費者問題はなぜ起こるのか 2. 契約トラブルとその対策 3. クレジット利用のリスク 4. 消費者の自立と行政の支援 ○持続可能な社会をめざして 1. 消費生活と環境問題 2. 私たちに何ができるのか	【主体的に学習に取り組む態度】社会で起こっている様々な課題について、関心をもち、問題解決をはかろうとする意欲を持って話し合い、学び合おうとする姿勢がみられる。	○	○	○	7
	定期考査に代えて、作品、レポート等の提出物で評価						
							合計
							78

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 実習

单位数： 4 单位

組～ 組

使用教科書：（機械實習Ⅰ）

の目標： 安全作業の指示道理の実施計画

【思考力、判断力、表現力等】安全に作業し、思考や判断力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】正しい学びと作業服を着て正しく姿勢で臨む。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ロートアイアンの製作でCADの正しい作図方法の理解や専門用語と正しい作業。	CADの理解と操作方法書き方読み方 ガス溶接の機械を正しく扱えるか	作業中の取り組みや作業終了時の清掃やかたづけ方法を見る

[illegible]

本所工科 高等学校 令和 8 年度 (2 学年用) 教科 工業 科目 電気実習

单位数： 3 单位

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解し、情報技術や数値処理に関する基礎的な知識を身につけ、それらの知識を概念的に理解し、調査や観察・演習を通して、それらを実際に活用できる技能を身につけている。	情報化社会における諸問題の解決や情報技術・数値処理について自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断し、情報技術や数値処理を活用して、論述や報告書の作成、グループでの話し合いや発表、作品の制作などの表現の能力を身につけている。	情報技術や数値処理に関する知識と技能を獲得したり、思考・判断・表現の力を身につけたりすることに向かう粘り強い取り組みを通して、他者との協働により自らの考えを相対化し、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。

[illegible]

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 電気回路

单位数： 3 单位

使用教科書：（ 「電気回路１」 実教出版・担当教員作成のプリント ）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身につけている。	基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味をもち、電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時数
1学期	電流の正体と性質、種類について理解させる。 電流計・電圧計の接続方法や回路図を理解させる。 電流・電圧・抵抗の関係について理解させる。 抵抗器・コンデンサ・コイルの役割を理解させる。 オームの法則を理解させる。 抵抗の直列接続・並列接続・直並列接続について理解させる。 電池の接続について理解させる。 キルヒホッフの法則について理解させ、キルヒホッフの法則を用いた計算を習熟させる。 電流の発熱作用を理解させる。 電力と電力量について理解させる。 温度上昇と許容電流について理解させる。	・電気回路の電流 ・電気回路の構成 ・電気回路の電圧 ・電気回路の測定 ・抵抗器 ・コンデンサ ・コイル ・オームの法則 ・抵抗の直列接続 ・抵抗の並列接続 ・抵抗の直並列接続 ・電流・電圧・抵抗の測定 ・電池の接続 ・キルヒホッフの法則 ・電流の発熱作用 ・電力と電力量 ・温度上昇と許容電流	【知識・技能】 電流が電子の流れに関係していることを理解し、電流の大きさを電荷と導線の断面積、時間から求めることができる。 オームの法則を用いて、電流、電圧および抵抗の未知量を求めることができる。直列回路、並列回路の各抵抗の電圧、電流などを求めることができる。また、キルヒホッフの法則を用いて回路の電流、電圧を求めることができる。 ジュールの法則を用いて電流による発熱量、電力などを求めることができる。 【思考・判断・表現】 電流が電子の流れに関係していることから電流の向きを判断できる。また、電流・電圧・抵抗の関係性を思考し、グラフや式で表現できる。 電気抵抗が抵抗率、断面積、長さとも関係することをパイプと水流との関連で類推し表現できる。また、抵抗器に書かれたカラーコードや許容差などを読み取り、使用に適切な抵抗器かを判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 電流・電圧・抵抗についてや、これらの関係について、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。 電流の発熱作用、電力と電力量に、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	45
2学期	帯電体による静電現象を身近な例によって理解させ、クーロンの法則を利用して静電力の計算ができるようにする。 電界・電位・静電容量について理解させる。 平行板コンデンサに電荷が蓄積される現象を理解させる。 コンデンサの並列・直列接続について理解させ、合成静電容量の計算ができるようにする。 クーロンの法則は物理的な意味を理解させた後に、計算問題を解く手法に習熟させる。 アンペアの右ねじの法則について理解させ、電流によってどのような磁界がつくれるかを理解させる。 点磁極による磁界の強さ、電流のつくる磁界の大きさについて理解させる。 アンペアの周囲力の法則について理解させ、磁界の大きさを求める計算ができるようにする。	・電荷と電界 ・コンデンサ ・電流と磁界	【知識・技能】 電気力線の性質を理解し、点電荷によって生じる電気力線、点電荷の極性による電気力線の関係を述べるることができる。平行板コンデンサと誘電体の性質や静電容量の意味、電荷・電圧・静電容量の関係を理解し、合成静電容量を求めることができる。磁力線の性質を理解し、描くことができる。磁極間に働く力の関係を理解し、クーロンの法則により力の大きさを求めることができる。また、アンペアの右ねじの法則から、電界と電流の向きの関係を理解している。 【思考・判断・表現】 静電誘導現象から静電遮へい現象を推論し表現できる。 平行板コンデンサの静電容量は、金属板の間隔とかかわることを推論し表現できる。 電流が流れると磁界が生じ、磁界は磁力線や磁束によって表されることがを考察し表現できる。 電流と磁力線の関係から電磁力の向きを考察し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 静電現象や電荷と電界の関係などについて、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。 平行板コンデンサの静電容量、コンデンサの接続と合成静電容量などについて、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	48
3学期	電磁力の向きと大きさの求め方、方形コイルに働くトルクの求め方、平行な直線状導体間に働く力の求め方について理解させる。 環状鉄心の磁気回路及び鉄のBH曲線（磁化曲線）について理解させる。 電磁誘導現象、誘導起電力の向きについて理解させ、誘導起電力の計算ができるようにする。 インダクタンス、自己誘導現象、相互誘導現象、電磁エネルギーについて理解させる。	・境界中の電流に働く力 ・磁性体と磁気回路 ・電磁誘導と電磁エネルギー	【知識・理解】 導線に流れる電流や磁界、これらより生じる電磁力の向きをフレミングの左手の法則から求めることができる。 磁気回路を電気回路と対応させて回路の磁束を求めることができる。 自己インダクタンスと相互インダクタンスの意味を理解し、コイルやコイル間にも生じる誘導起電力を求めることができる。 【思考・判断・表現】 電流が流れると磁界が生じ、磁界は磁力線や磁束によって表されることがを考察し表現できる。 電流と磁力線の関係から電磁力の向きを考察し表現できる。 磁気回路を電気回路に対応させて推論し表現することができる。 導体の運動と誘導起電力の関係を考察し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 磁石による磁気現象や電線に流れる電流によって生じる磁界の方向や大きさについて、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。 境界中の電流に働く電磁力の方向や大きさについて、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。 電磁誘導による起電力の発生と電磁エネルギーについて、理解を深めようとする主体的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	24
							合計
							117

本所工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 電気回路

教 科： 工業 科 目： 電気回路(電子類型) 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ 工業007-906 電気回路1（実教出版） ）

教科 工業 の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として、よりよい社会の構築を目指して豊かな人間性と工業の発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

科目 電気回路 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	電気回路の課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 電気回路の要素 1. 電気回路の電流と電圧 電流・電圧・抵抗の関係について理解する。 電流計・電圧計の接続方法や回路図を理解する。 2. 抵抗器・コンデンサ・コイル 抵抗器・コンデンサ・コイルの役割を理解させる。	第1章 電気回路の要素 1. 電気回路の電流と電圧 2. 抵抗器・コンデンサ・コイル	【知識・技能】 ・各電子部品の違いが分かる。 ・オームの法則を理解して、計算することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・回路を見てどの電子部品が必要か判断できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
	第2章 直流回路 1. 直流回路 オームの法則を理解させる。	2章 直流回路 1節 直流回路		○	○	○	
	定期考査			○	○		1
	第2章 直流回路 1. 直流回路 抵抗の直列接続、並列接続について理解させる。 電池の接続について理解させる。 キルヒホッフの法則について理解させ、キルヒホッフの法則を用いた計算に習熟させる。	2章 直流回路 1節 直流回路	【知識・技能】 ・各電子部品の違いが分かる。 ・直並列接続を理解して、計算することができる。 ・キルヒホッフの法則について計算することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・回路を見てどの電子部品が必要か判断できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	
				○	○		1
2 学 期	第2章 直流回路 2. 電力と熱 電流の発熱作用を理解する 電力と電力量について理解する 温度上昇と許容電流について理解する ゼーベック効果、ペルチェ効果について理解する 3. 電気抵抗 抵抗率、導電率、抵抗温度係数について理解する。 4. 電流の化学作用と電池 フアラデーの法則について理解する 一次電池、二次電池について理解する	第2章 直流回路 2. 電力と熱 3. 電気抵抗 4. 電流の化学作用と電池	【知識・技能】 ・電流の発熱作用について理解して、計算することができる。 ・電力と電力量について計算することができる。 ・温度上昇と許容電流について計算することができる。 ・ゼーベック効果、ペルチェ効果について理解する。 ・抵抗率、導電率、抵抗温度係数について理解し、計算することができる。 ・フアラデーの法則について理解する。 ・一次電池、二次電池について理解する。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・回路を見てどの電子部品が必要か判断できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	17
	第3章 静電気 1. 電荷と電界 帯電体による静電現象を身近な例によって理解し、クーロンの法則を利用して静電力の計算ができる。 第4章 コンデンサ 2. コンデンサ 平行板コンデンサに電荷が蓄積される現象を理解する。 コンデンサの直並列接続について理解し、合成静電容量の計算ができる 3. 絶縁破壊と放電現象 絶縁破壊現象、絶縁破壊電圧の強さ、蛍光ランプによる放電現象について理解する。 第4章 磁気 1. 電流と磁界 クーロンの法則は物理的な意味を理解し、計算問題を解く方法に習熟する。 アンペアの右ねじの法則について理解し、電流によってどのような磁界がつくられるか理解する。 アンペアの周回路の法則について理解させ、次の大きさを求める計算ができる。 2. 磁界中の電流に働く力 電磁力の向きと大きさの求め方、	第3章 静電気 1. 電荷と電界 2. コンデンサ 3. 絶縁破壊と放電現象 第4章 磁気 1. 電流と磁界 2. 磁界中の電流に働く力	【知識・技能】 ・クーロンの法則を利用して静電力の計算ができる。 ・コンデンサの仕組みを理解し、回路計算ができる。 ・磁界の概念を理解し、磁界中の電流に働く力の計算ができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・必要な静電容量を既存のコンデンサで構成することができる。 ・電流の向き、または磁界の向きから電流の向きがわかる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	
	第4章 磁気 3. 磁性体と磁気回路 環状鉄心の磁気回路及び鉄のBH曲線（磁化曲線）について理解させる。 4. 電磁誘導と電磁エネルギー インダクタンス、自己誘導現象、相互誘導現象、電磁エネルギーについて理解する。	第4章 磁気 3. 磁性体と磁気回路 4. 電磁誘導と電磁エネルギー	【知識・技能】 ・磁化曲線について理解している。 ・インダクタンス、自己誘導、相互誘導、電磁エネルギーについて計算することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・電流の向き、または磁界の向きから電流の向きがわかる。 ・フアラデーの法則とレンツの法則についてわかる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	12
	第5章 交流回路 1. 交流の発生と表し方 正弦波交流の発生原理、角周波数と周波数の関係、正弦波交流の瞬時値と実効値・平均値などについて理解する。 2. 交流回路の電流・電圧 応相と位相差、R、L、C単独回路とRL、RC、RLC直並回路に関するベクトル表現と計算方法について理解する。 3. 交流回路の電力 消費電力、力率、日総電力、無効電力及び無効率などに関する物理的な意味を理解させ、それらに関する計算を習熟する。	第5章 交流回路 1. 交流の発生と表し方 2. 交流回路の電流・電圧 3. 交流回路の電力	【知識・技能】 ・交流の発生と表し方について理解している。 ・交流回路の基礎回路の計算ができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・共振周波数からコイルまたはコンデンサの値を求めることができる。 ・皮相電力、有効電力、無効電力の関係性を理解し、この関係性から電力を計算することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	
				○	○	○	合計
							78

